



## Japan Society for Tobacco Control

### 日本禁煙学会

<http://www.jstc.or.jp/> E-mail desk@nosmoke55.jp  
〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町 30-5-201  
Tel 03-5360-8233 FAX 03-5360-6736

厚生労働大臣 塩崎恭久様

平成 29 年 7 月 4 日

一般社団法人 日本禁煙学会 理事長 作田 学  
健康日本 21 推進全国連絡協議会会長 下光輝一  
公益財団法人 日本対がん協会会長 垣添忠生  
日本肺がん患者連絡会 代表 長谷川一男

厚生労働省原案を支持する 94,595 通の署名をお届けいたします。

#### (記)

私たちは受動喫煙の規制に面積基準や事業主による喫煙、分煙、禁煙の別を設けることに反対いたします。

マーガレット・チャン WHO 事務局長から塩崎大臣あての親書(2017 年 3 月 29 日)にもありましたように、「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会で、長い伝統であるタバコフリーという政策を維持するよう、要請します。特に、屋内の公衆の集まる場(public places)での喫煙の完全禁止を全国レベルで実施するよう要請します。」というお言葉にはあまりにも重いものがあります。

1 年間だけで、我が国では 1 万 5 千人が受動喫煙で亡くなっています。さらに、それを遙かに上回る人々が受動喫煙症で苦しんでいます。

短い間ではありましたが、94,595 人の方が賛同をされました。多くの方が添え状として「受動喫煙防止法が実現することを祈っております。」と書かれてきました。

化学物質過敏症に罹患している方で、タバコの煙を吸うと喉が焼けるような痛みを感じ、呼吸困難になる方は、次の様なことを書いておられます。「種々のアンケート調査を見ると、70~80%の人々が受動喫煙対策を強化して欲しいと願っているようです。なのに、なぜ政府は国民の希望を無視して対策を緩和しようとするのでしょうか？ 我々は何らかの方法で受動喫煙防止対策の必要性を政府に訴えるべきだと思います。

化学物質過敏症を患う人たちは、みなこの賛同署名をしたいと望まれるのではないのでしょうか？ どうか、今後も受動喫煙をなくすために、種々活動して下さいますようお願いいたします。」という切々たる文章もありました。

塩崎恭久先生、どうぞ国民の 80%ほどが願っている受動喫煙防止法を、当初の案の通りにお決め下さいますようお願い申し上げます。それが WHO の要請でもあり、オリンピックの際に日本を訪れるすべての方々のためでもあり、そして何よりもわが国民のためと思います。

以上